

○事業所名	シェアワークスクりはら		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 1日 ～ 令和7年 12月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 1日 ～ 令和7年 12月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同じ敷地内に短期入所があるため併用がしやすい 同じ施設内に生活介護があるため、卒業後移行しやすい	放デイ利用後、放デイスタッフがご本人と一緒に短期入所先へ行き、夜勤スタッフに情報共有し、統一した支援ができるよう努めている。移行時、生活介護スタッフに情報共有し、不安なく移行できるよう努めている。	短期入所利用時はその日の様子に加え、いつもと違う様子や気になった様子等も丁寧に申し送り、不安なく過ごせるよう対応していく。
2	同じ施設内に生活介護があるため世代間交流が図れる	生活介護の利用者と季節の行事等の活動を共に行い、交流を深めている。	学校休業日等を活用し、合同で行うイベントや、日頃の活動（レクやゲーム等）でも一緒に行う機会を増やし、より一層交流を深めていく
3	施設内が広いため、のびのびと体を動かすことができる 1人になれる空間があるため、パーソナルスペースを確保しやすい	施設内で体を使ったレクリエーション活動や鬼ごっこを行い運動能力の向上を図っている。他者との関わりの中でトラブルが起こった際、パーソナルスペースを確保し、クールダウンを行っている。	体を動かすレクリエーション等様々な活動を取り入れながらこども達がのびのび楽しく過ごせるよう、職員の知識を深めていく。 日々の様子を見守りながら、適切なクールダウンのタイミングを見極め、対応していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団活動に参加できない児童への個別活動が不十分な時がある	週ごとに活動を計画し、児童の担当を決めて行っているが、参加できない場合を想定しての個別活動の準備が不足している場合がある。	支援前にスタッフ間でミーティングを行い、担当の確認や児童の申し送り等に加え、個別の活動についても話し合い、適時個別活動へ切り替えられるようにしていく。
2	社会学習の機会が少ない	外出の時間制限がある児童がいる等で、社会学習への取り組みに消極的である。	できないことを理由にせず、可能にする方法を検討し、身近な所からはじめ、様々な社会学習へと広げていく。
3	地域との交流の場が少ない	地域の行事に参加する機会を持っていない	夏祭り等事業所が自発的に交流の場を設け、地域住民を招待し、地域との関わりを深めていく。